

# しんぎょう

## 真楽寺報

浄土真宗本願寺派（西本願寺）

令和四年十二月

外儀のすがたはひとごと

賢善精進現ぜしむ

貪瞋・邪偽おほきゆる

奸詐ももはし身にみり

（外見は皆賢く善行を励んでいますですが、内心には欲や怒りや邪心や偽りが満ちています。）

（親鸞聖人『悲歎述懐讃』）

もう四十年くらい前でしょうか。車を運転し国道を走っていると、警察の人が数人、道路脇に立っています。事故ではなさそうだがと思いつながら通り過ぎようとすると、その中の一人が私に向かって合図をするので、「道路の横の空き地に車をいれよ」という指示です。こういうとき、ドキッとするのはなぜなのでしょう。何も違反はしていないのになと思いつながら、無視するわけにもいかず、誘導に順い車を止めて窓を開けましたら、その方は交通安全のパンフレットを渡しながら「交通安全

隣にいらつしやる方は、この私の内心を見て取られたようです。

口では丁寧「有り難うございます」等と言つても、顔や態度は違っていたのでしょうか。

さて、あれからずいぶんの年月が経つて、今、いかり腹立ちの姿は出なくなつたでしょうか。欲や愚痴は出なくなつたでしょうか。あまり自信がありません。仮に身や口に出ていなくとも、身の内に潜む貪欲・瞋恚・愚痴をはじめとする無数の煩惱は未だに盛んです。

この世の中は、愚かに振る舞つて生きようとか、悪人として生きていこうとか、怠けまくつて要領よくやっつていこう、等とは思いません。他人のことを思いやり、善いことを行い、努力を重ねる生き方をしたいのです。そうやって長年の努力の結果、人様に醜態をさらすことは減つてきました。それは身にもとつた鎧甲が厚くなつてきたようなもので、中身は無防備に愚悪そのものです。それが意のままにならない私の悲しい本性でしょう。

このように私に親鸞聖人は「賢善精進の相を現ずることを得ざれ。内に虚仮を懐けばなり。」と述べられます。うわべだけ取り繕つても、それは真実の行いにはなりません。それを見抜いた阿弥陀如来が、凡夫がさとりを得る世界としてお浄土を建立し、ここに生まれさせるとはたらい下さつていますと、記されます。

親鸞聖人の師、法然聖人は、「阿弥陀如来のはたらきを身に頂いて生きる人は、愚者となくお浄土に生まれていくのです」と仰せになりました。「智慧第一の法然房」と讃えられていた聖人がご自身を「愚痴の法然房」と称し、ひとえにお念仏しておられました。

賢さをひけらかすのではなく、愚悪をただ嘆くのではなく、まして悪行を肯定するのではなく、阿弥陀如来のはたらき、あなたを必ずさとりに至らせる、仏道を歩ませる、という仏力を、その姿で表しておられた法然聖人、そして親鸞聖人のお念仏でした。

# 年末行事について

## ◎本堂大掃除・餅つきについて

### 餅つき中止のお知らせ

先月の寺報で年末の大掃除・餅つきの御案内をしていましたが、餅つきは中止とし、大掃除のみ実施することに致しました。

夏過ぎに一時収束の兆しがありましたが、ここに来て、コロナ感染症が大きく広がっています。御門徒の皆様が集って、如来様のお供えの餅をつくことを楽しみにして下さっていましたが、沢山の人が接触することが多い餅つきはまだ難しいと判断致しました。大掃除のみ実施致します。

年末のご多用の中ですが、お時間に都合のつかれる方は御参加下さい。

期日 **十二月二十五日(日)**

午前九時から

午前中で終わります。

## ◎除夜会

今年最後の仏徳讃嘆です。お正信偈のお勤めのための法会とします。

期日 令和四年

十二月三十一日(土)

時間 午後五時から 勤行

## 年始行事案内

### ◎元日会

年の初めに、御一緒にお正信偈のお勤めを致しましょう。

期日 令和五年一月一日(日)

時間 午前十時より一時間

正信偈(行譜)の勤行

### ◎仏具おみがき

御正忌報恩講を前に、本堂のお仏具のお磨きを致します。

お手伝い出来る方は、よろしくお願い致します。

期日 一月八日(日)

午前九時から十一時まで

### ◎親鸞聖人御正忌報恩講

宗祖親鸞聖人七百六十一回忌のお勤めです。

聖人の御生涯を思いながら、お念仏のみ教えを御一緒にお聴聞させて頂きます。

お誘い合わせご参詣下さい。

記

期日 一月十三日(金)から

十六日(月)まで

時間 午前九時半より

尚、十五日は午後七時より

大速夜のお勤めもあります。

## 浄土真宗の宗祖親鸞聖人の御一生

承安三(一一七三)年	御誕生
養和元(一一八二)年 九歳	出家得度
建仁元(一一〇二)年 二九歳	比叡山を下り、吉水の源空(法然)聖人のもとで専修念仏に帰す
承元元(一一〇七)年 三五歳	専修念仏停止、越後国府に流罪(承元の法難)
建暦元(一一二二)年 三九歳	流罪を赦免される
建暦二(一一二二)年 四〇歳	↳健保二(一一二四)年 四二歳頃 関東へご移動 上野佐貫を経て、常陸稲田へ
元仁元(一一二四)年 五二歳	『顕浄土教行証文類』(『教行信証』)を著す(草稿本成立)
その後何度も校正を重ねられる	
貞永元(一一三二)年 六〇歳	↳嘉禎元(一一三五)年 六三歳頃 帰洛
そのご晩年まで沢山の著述	
弘長二年十一月二十八日	
(一一六三年一月一六日) 九〇歳	御往生

※令和五年は、親鸞聖人御誕生八五〇年、立教開宗(一一二四年)より八〇〇年になります。

## ◎お知らせ

☆一月の定例の法座(月例法座、家族礼拝など)は、お休みします。

元旦会、御正忌報恩講に

お詣り下さい。

## 毎月の行事案内

(二月、八月を除く)

### ◆月例法座

毎月第一日曜日

午前九時半より約二時間

### ◆家族礼拝

毎月第二日曜日

午前九時より約一時間

### ◆親鸞聖人御命日法要

毎月十六日

午前九時半〜十時半

### ◆門徒会(御法義歓談会)

毎月十六日

御命日法要に引続き

### ◆聞信会

毎月第二土曜日 午後二時より

### ◆富の原真楽寺月例法座

毎月第二日曜日 午後二時より

大村市木場一丁目八五番地 真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>